

2015年、当社は100周年を迎えました。  
当社の歴史や製品に関連ある  
博物館・美術館をご紹介します。

# 安川電機 & ミュージアム

第4回

## ブリヂストン美術館

所在地 東京都中央区京橋1丁目10番1号  
開館時間 10:00 ~ 18:00 (毎週金曜日は20:00まで)  
※入館は閉館の30分前まで  
休館日 毎週月曜日(祝日の場合は開館)  
※5月18日よりビル建て替え工事のため数年間休館  
URL <http://www.bridgestone-museum.gr.jp>

### <美術館の概要>

前回の石橋美術館に続き、2006年の坂本繁二郎展の巡回で当社所蔵の「モートル図」が展示された東京・京橋のブリヂストン美術館をご紹介します。続けての美術館のご紹介になりますが、お付き合いください。

ブリヂストン美術館は1952年に東京では初めての西洋美術を常設展示する美術館として開館しました。これまで美術ファンに永く親しまれた著名な美術館ですが、5月17日まで開催の「ベスト・オブ・ザ・ベスト」展が終了後、しばらく休館してビルの解体、新築工事に入るそうです。これまでの美術館の功績に感謝しながら、今回の展覧会をご紹介します。



ブリヂストン美術館展示室

### <今回の展覧会>

「ベスト・オブ・ザ・ベスト」展は、19世紀以降のフランスを中心とした西洋近現代美術が系統だってそろえられているブリヂストン美術館のコレクションから選り抜かれた約160点を紹介するものです。これらには、西洋美術史をかたちづくる画家たちの代表作品が多く含まれており、印象派、ポスト印象派からフォーヴィスム、キュビズム、そしてエコール・ド・パリと19世紀以降の主にパリを中心に展開された西洋近代美術の流れを東京都心でたどることができます。

東京駅から八重洲通りを東に5分ほど歩くと、銀座の中央通りの角にブリヂストン美術館があります。2階の展示室で、これまでの美術館の歴史コーナーを抜け、マネの自画像やモネの睡蓮を見ながら進むと、ルノワール、シスレー、シニャックが登場します。そこからセザンヌの《サント=ヴィクトワール山とシャトー・ノワール》やピカソ、ブラックの作品が並び、その先ではフォーヴィスムやモディリアーニやスーティンなどエコール・ド・パリ、戦後美術が鑑賞できます。日本人の作品も藤田嗣治や岡鹿之助、佐伯祐三など20世紀を代表する画家の作品が展示されています。また、安川アメリカが近郊に立地するアメリカ・シカゴ美術館のカイユボット「パリの通り、雨」をご存知の方もいらっしゃると思います。これまで日本ではあまりお目にかかれない画家でしたが、近年コレクションにカイユボットの代表作が加わったことも大きなトピックスです。このような世界屈指の美術館で、当社の「モートル図」が展示されたことを誇らしく思います。

世界屈指の美術館ながら、東京駅近くで気軽に楽しめることも大きな特長です。これまでどおり、金曜の夜は20時まで開館していますし、この展覧会の2回目以降の来館ではチケットの呈示で入館料が半額になったり、3月後半には学生が入場無料になるなど、美術を気軽に楽しんでもらうための取り組みもされています。

63年間多くの人に愛され、落ち着いて寛ぎながら鑑賞できた現在の空間で見る最後の展覧会です。1時間程度でも充分楽しめますので、金曜の夜や週末などお気軽にお出かけ下さい。



ポール・セザンヌ《サント=ヴィクトワール山とシャトー・ノワール》  
1904~06年頃



ギュスターヴ・カイユボット《ピアノを弾く若い男》1876年